

令和7年度 授業評価アンケート実施結果

令和7年10月実施

<結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	どの項目でも「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えている人が90%を超えており、大半の生徒が前向きに取り組めるような授業展開となっていると考えられる。しかし、「授業で「わかった」、「できた」と思うことがよくある」という項目に対して「あまり当てはまらない」と答えている生徒が一定数おり、授業の達成感の向上には改善の余地がある。	その日の授業の到達点を明示し、授業構成を工夫して、生徒が着実に達成できるようにする。また、生徒の取り組みから到達点のレベルを調整し、書く・読む・話す・聞くの4つの力をバランス良く伸ばすことができるように授業を展開したい。
地歴公民	ほとんどの項目で「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒が9割を超えるが、詳細に分析してみると、「授業で「できた」「わかった」と思うことがよくある。」という項目や「授業に集中できる雰囲気である」という項目で「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」と回答した生徒が1割前後いた。	生徒の授業への取り組み方や理解力について個人差があるので、できる限り、より多くの生徒が理解できるような指導の工夫を続けていきたい。また、授業に集中できる雰囲気であると感じていない生徒に対して、生徒の学習活動の様子をよく観察しながら、適切な指導・声かけを行っていきたい。
数学	質問「成績の出し方がはっきり示され、適切に評価されている」と「先生の声の大きさや速さは適切である」について「あまり当てはまらない」と答えた生徒がいないことがわかる。また、「次に授業が始まるまでに、自分の準備ができています」と「自分は授業にまじめに取り組んでいる。」が昨年度に比べ、評価が高くなっている。	本年度の授業の目標の一つに、「まとまりをもった授業を心がける」としていたが、今回の授業評価において「最初にその日にすることがわかる授業(実習)である。」の項目に「全く当てはまらない」が数%あった。視覚優位の生徒と聴覚優位の生徒がいるため、その点を意識して授業ごとのまとまりを意識すべきである。
理科	「よく当てはまる」が5割を超え、「だいたい当てはまる」と合わせれば9割以上が良好な回答をしている。しかし、「先生の教え方はわかりやすい」と「授業に集中できる雰囲気である」の項目で、「よく当てはまる」が減っており、生徒にとって集中しやすい環境と分かりやすい授業の実施に向けた改善の余地があると考えられる。	生徒に個別に働きかけなどして集中しやすい環境になることを心がけ、実験・観察やICT機器の活用しながら、学習内容の理解の助けとしたい。また、理科に対して苦手意識がある生徒も積極的に授業に参加できるように、引き続き学習内容や目標の提示を明確にし、日常との関連を具体的に提示していきたい。
外国語	ほぼ全ての質問に対して「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」の回答が90%前後に上った。このことから、生徒は授業の目標を理解したうえで授業進捗も生徒にとって適切であることがうかがえる。今後の課題として、授業導入で実施しているPT(パフォーマンステスト)の際に、苦手意識を感じて席を移動しない生徒が毎時間複数名いる。「話すこと」だけでなく「書くこと」に代替えするなどして英語に触れるウォーミングアップの機会を発展させたい。	生徒の基礎学力を定着させるとともに、英語を学んだだけでなくより一層主体的な学習ができるような「わかった」、「できた」という機会を増やしていきたい。そのために、作成しているプリントに難易度をつけるなどして、生徒の進捗に合わせた主体的な学習ができるように促していきたい。また、紙面上の言語として捉えるのではなく、関連する動画を視聴することで、海外の文化に触れる機会を提供して生徒の視野を広げる機会を作りたい。
保健体育	すべての項目において「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の割合合いが97%を超えており、大半の生徒は授業に前向きに取り組んでいる結果であると考えられる。一方で、少数ではあるが授業に集中できる雰囲気ではないと回答した生徒もいたため、改善が必要である。	一部の生徒が落ち着きがなかったり、集中できなかったりする傾向にあるので、全体に対しての指導だけでなく、個別に呼んで繰り返し指導を行うなどの工夫をしていきたい。また、引き続き生徒が向上心をもって理解することのできるスモールステップの学習展開を心がけ、目標にしていきたい。
芸術	授業終わりに呼びかけたためか回答数が少なかった。すべての項目において「まったく当てはまらない」と回答している生徒1名を除いても「教え方がわかりやすい」に当てはまると答えていない生徒が増加し、集中できていない生徒も減少していない。自分がまじめに取り組んでいると思う生徒は増加している。	教科書を変える来年度から教材の見直しやグループワークを含めた指導の方法などを根本から見直す必要がある。
家庭	半分以上の項目において、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が100%達成している。ほとんどの生徒が授業に積極的に取り組み、授業を理解しようとする姿勢が見られている。	ごく少数の生徒であるが、「授業に集中できる雰囲気である」や「次に授業が始まるまでに、自分の準備ができています」で「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答している。授業が始まる前に生徒の準備ができていますか確認を徹底し、集中して取り組める環境を作っていきたい。
情報	すべての項目において、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答が90%以上であり、大半の生徒にとって適切な授業進捗と難易度になっていると考えられる。一方、少数ではあるが「授業に集中できる雰囲気である」という項目においては「あまり当てはまらない」と回答した生徒がいた。グループという授業形態に加え、タブレットが机上にある環境で授業を展開してきたことも要因として考えられるため、検討する必要がある。	授業形態や学習環境について、どのようにICTを活用すべきか、やる気を引き出すためにどのような授業展開が必要かという視点で検討を重ねていく。各回の授業で流れや目標を明示し、生徒が学習の見通しを立てられるような授業の導入を目指していきたい。また、情報教育の中心ともいえる教科の指導として、探求活動などでも活かせる情報活用能力の育成を進めていきたい。
農業	全ての項目について「よく当てはまる」「当てはまる」が90%以上であり、生徒の満足度が高いものとなっている。しかし、「自分は授業に真面目に取り組んでいる」が低い生徒がいるので、集中できる環境作りと興味を惹く授業展開を検討する必要がある。	授業は、座学の確認を実習で行い、生徒の理解度に合わせて授業を展開することに重点をおいて指導していきたいと考える。そのため常に、座学と実習のバランスを考えながら授業を計画していきたい。授業に集中できない生徒については日々の声かけやわかりやすい指示で生徒のモチベーションと姿勢を高めやる気と集中力を引き出していきたい。
工業	よく当てはまる、だいたい当てはまると回答する生徒がすべての項目で90%以上になっている。1年次は専門的な実習にも意欲的に取り組んでいる姿が見受けられる。また、2、3年次も系列の授業以外の資格や校外活動などにも積極的に参加している。	現在、全学年で5S講習会、2年次溶接、3年次溶接、課題研究、QC講習会など外部講師を招聘し指導にあたることで実技指導の充実を図っている。また、情報教育の充実も図っている。基礎学力の定着が課題となっているため、今後も実技指導の充実を軸に、座学の学習充実にも取り組んでいく。
商業	どの項目でも「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」がほとんどで、昨年より力を入れているT.Tによる指導が生徒の実情に合っていると考えられる。授業への意欲について、「よく当てはまる」の評価に繋がるように取り組む必要がある。	理解度に差がある場合は、今後もT.Tによる丁寧な指導を行っていききたい。個別に対応できない場面は、補習等で対応できればと考えている。授業の導入(冒頭)の工夫や実習による成功体験の積み重ねにより、授業への意欲を高めていきたい。
福祉	「だいたい当てはまる」が増加した。介護福祉基礎では昨年の結果を踏まえ外部講師を活用したり、パワーポイントを活用するなどし、生徒にとって「わかりやすい」授業を心掛けた。	今後も、ICT機器を活用するなどし、生徒の興味・関心を向上させていきたい。また、授業内容の理解度については授業の振り返りを増やしたり、小テストや宿題などに取り組むことで定期的に測れるようにしたい。